

1/21
早民福々



おおい町でも ヨウ素剤配布

原発5キロ圏747人に

県とおおい町は二十日夜、関西電力大飯原発の半径五キロ圏で暮らす三歳以上の町民七百四十七人(二百八十二世帯)に安定ヨウ素剤の配布を始めた。県内の

自治体では、十月三十一日

安定ヨウ素剤を受け取る住民ら20日夜、おおい町大島での高浜町に続き二カ所目。

おおい町大島のはまかせ交流センターで説明会があり、二十八人が参加した。医師らが甲状腺被ばくを防ぐ効用や服用方法を説明。事前に郵送され、住民が記入した問診票を県と町の医師ら三十五人が病歴などを確認しながら、参加者の家族らも含めた六十五人分の錠剤を手渡した。

四歳の長男と訪れた同町宮留の会社員女性(三三)は「身近過ぎて感じなかった。原発の存在を意識させられた。副作用は心配だが、万が一のときには息子たちに飲ませる」と話した。

今後、同町は二十八日まで四回の説明会を開く。県は美浜町、敦賀市、小浜市の千四百六十人(五百四十三世帯)にも配布していく。

(平井孝明)